

72 転作田における牧草導入と移動式電気牧柵による肉用牛放牧の試み

福島県畜産試験場 草地飼料部・平成12年度畜産試験場試験成績概要

1 部門名 飼料作物－草地－園地・草地造成・放牧 分類コード08-01-54500000

2 担当者 江畑明彦・関 里織・武藤健司・土屋友充

3 要旨

中山間地域の転作田を肉用牛の放牧地として有効活用するため、牧草の導入技術と移動式簡易電気牧柵を用いた放牧方法を検討した。

(1)放牧地耕種概要:福島市佐原の和牛繁殖農家所有転作田(降雨48時間後地下水位50cm以下で排水良好)、供試草種(イネ科5種、マメ科1種の単播又は混播)、基肥(N-P2O5-K2O=5-10-5kg/10a)、ロータリー耕耘を行って平成11年9月20日に牧草播種(播種量約3kg/10a)、追肥(N-P2O5-K2O=7-14-7kg/10a、平成12年6月と8月の2回合計)。

(2)放牧方法:外周に有刺鉄線の外柵、畦畔で区切られた牧区A(440㎡)及びB(400㎡)に移動式電気牧柵を設置した。親牛2～3頭単位を昼間のみの時間制限(夜間畜舎管理)で、5月～8月に牧区Aではのべ112カウデー、牧区Bは154カウデー放牧を行った。今回の放牧条件では、ほ場の泥濘化もなく放牧が可能であった。

(3)植生変化:オーチャードグラス、ペレニアルライグラス、イタリアンライグラス、ケンタッキーブルーグラス、ホワイトクローバを混播した牧区Bでは、放牧後にオーチャードグラスが優占草種となり、乾物中のマメ科率5.0%、雑草率12.1%で、掃除刈りすることなく放牧地として植生が維持されており、最も適当であった。

4 主な参考文献・資料

(1)貝 昌之ら.1988.水田酪農地帯における転作畑の放牧利用技術.山口畜試研報No.7:145-156

(2)瀬川 敬ら.1999.傾斜小規模放牧における牧柵設置に伴う崩壊と崩壊防止技術.草地飼料作研究成果第14号:137-138